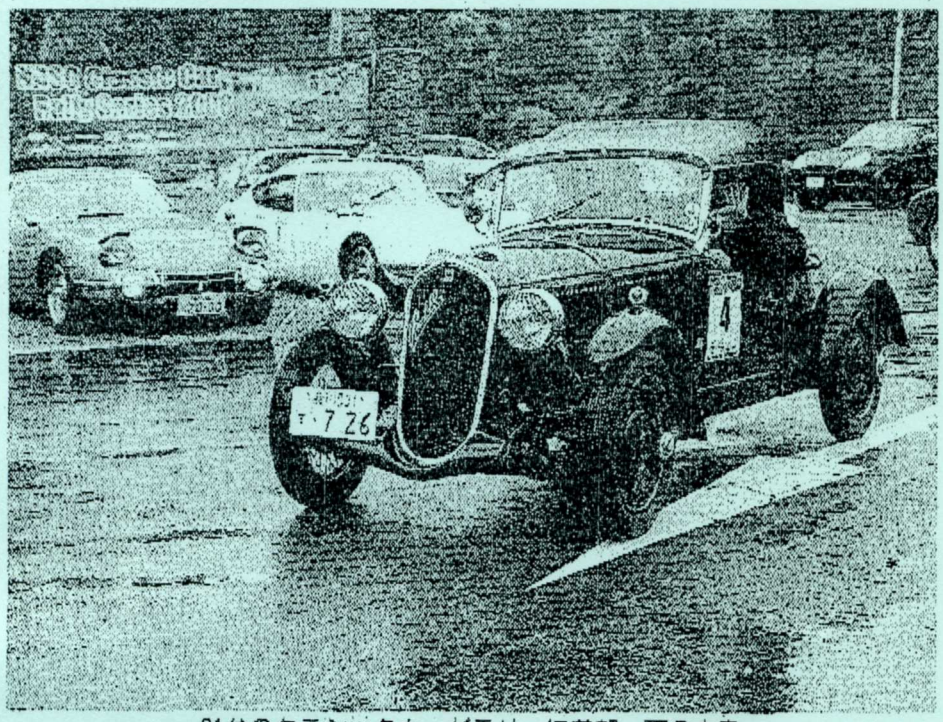
クラシックカー、伊豆を走る

下田でラリー初開催

天城越え総延長130キロ　堺正章さんも参加

NASC（ナガノオートスポーツクラブ）サンドワークス・プロジェクト＝長野県竹間市＝主催のクラシックカーラリー「二〇〇八シリーズ最終戦」が八日、伊豆下田地区で初開催された。県内や首都圏、千葉、長野、奈良県などから一九三〇年―一九七五年を中心にしたクラシックカー三十一台が集結し、伊豆路を快走した。



31台のクラシックカーがラリーに参加、雨の中を次々と出発した＝下田東急ホテルで

イベントはクラシックカーを愛好するビギナーにラリーを知ってもらうことやイタリアで開かれるラリーに出場するほどのレベルアップなどが狙い。伊豆・関東地区を中心に地元自治体の協力で年四回開いている。

ラリーは交差点の略図が示されたルートマップをもとにナビゲーターがドライバーに指示。途中、十二カ所のチェックポイントで定められた距離を指定タイムで通過し千分の一秒まで計測。誤差の少なさを競うほか、スタンプポイントも設けてクイズに答える方式。

この日はあいにくの雨となったが、下田東急ホテルに集合したジャガーEタイプ、アルファロメオジュリエッタ、トヨタ2000GT、ロータス7、ポルシェ356Aといったクラシックカーが次々と駐車場を出発。マイマイ通りを抜け、河津、天城越えで天城高原まで行き、同ホテルへ戻る総延長一三〇キロコースを走った。タレントの堺正章さんも特別参加で、愛車で参加した。

下田市の国家賠償請求事件

産廃業者と和解成立

全協で報告　市長らの名誉棄損訴訟

下田市大沢に産業廃棄物焼却施設をもつワイティービジネス（吉岡あや子代表）が下田市を被告として提訴していた国家賠償請求事件は、市長らの名誉棄損の民事訴訟も和解したことが報告された。

一連の訴訟は平成十八年二月、下田市役所で開催された全協で「配慮を欠いた不注意な発言だった」ことを認め、同社は市長と元課長への賠償請求を放棄、一連の報告を同じ全協の席で「配慮を欠いた不注意な発言だった」ことを認め、同社は市長と元課長への賠償請求を放棄、一連の報告を同じ全協の席で

進めていた成立にともなは十月八裁判所下田口頭で国家

笑顔いっぱい

豆の路」そのものを取り上げてみたいと思います。街道好きな日本人にとって、伊豆は「路」の宝庫、海も山も川もあるのですから。下田街道はもとより、（以下は筆者の造語）熱海から南伊豆までの「陽海（ひみ）街道」、戸田から松崎までの「夕陽街道」。伊豆市内に目を転じても、中伊豆地区の「わさび街道」、修善寺駅から温泉場までの「修禅寺街道」、下田街道の一部として「天城街道」など。

それでは、人は「路」にいったい何を求めるのでしょうか。ロマン、歴史の息吹、自然の美しさ、出会い。まず、伊豆に求められるのは、恵まれた環境の美しさだと思います。かつて、海上自衛隊の

いうのは、見た時が、見た時に。確かだと思いれば、伊西海岸を

美観・景観するために課題になり天城街道はと深い渓谷っとりとが、一歩入れると、殊こはゴミの

近年、いう若者週ごとゴミ拾